

うすいものがたり No.6 (2021.09.28)

碓氷製糸株式会社 安藤俊幸

実りの秋が、碓氷地方にもやってまいりました。稲刈りの季節です。今年も新米がおいしく頂けると思うと、コロナ禍ではありますが、心が豊かになります。



実った稲穂とヒガンバナ

刈り取った稲は天日干しに

☆

☆

☆

☆

☆

さて、今、晩秋蚕期の繭が入荷してきています。前号で記載いたしましたとおり、入荷した繭は乾燥され保管されます。

これらの繭は、お客様のご要望に応じて、繰糸されますが、まず、選繭作業の工程を経ます。優良な生糸を提供するためには、最良な原料繭が基本となります。繭の中には、目で見ても外部に汚れのあるもの、玉繭、変形繭なども含ま

れていますので、これらを取り除きます。この工程で最も重視するのが、繭を透視光線（下部から蛍光灯で繭を照らし内部の状況を見ます）を利用し、繭内部の蛹が病気等でへい死し、汚れとなっている内部汚染繭などの除去を行います。この内部汚染繭が繰糸過程で混入すると、生糸の品質が低下します。徹底した選繭作業を重視しています。



繭の選別作業

また、最良な生糸製造の基礎となるのが、繰糸に使用する「水」、碓氷製糸(株)では、碓氷川の用水を使用しておりますが、台風など大雨などの時は、川が濁り、使用できません。急遽水道水等への切り替えを行う時もあります。これに加え、この「水」を温水にして煮繭や繰糸工程で使用するため、ボイラーを使用しています。以前は、大型のボイラーを使用していましたが、繭量の減少、繰糸量の減少とともに、小型ボイラーの能力が格段にアップしたことなどにより、現在では、小型ボイラー3台を効率的に使用しています。燃料とし

て、「A重油」を燃料として使用していますので、燃料費（A重油単価）も大変
気になるところです。

このたび、当社に群馬県、安中市のご協力をいただき、小型ボイラー1台を
新たに導入いたしました。ほぼ一年中、ボイラーは休みことなく稼働しますの
で、どうしても、劣化する部分が出てきます。定期的な保守点検を行うもの
の、12～15年ほどの耐用年数の間が、精一杯の運転期間のようです。



小型ボイラー

「繭、水」のほか、当然、乾燥、煮繭、繰糸等生糸製造にかかる機器類とそれ
らを管理する技術が重要であります。

繰糸器械類は、多くの製糸業者が使用している「ニッサンHR型」は、既に
日本国内では新規には製造されていませんので、今導入されている機器類を工

務関係職員で丁寧に手直しや部品交換して使用できるように保守しています。



繰糸作業（ニッサン HR 型繰糸機）

今後も、優良生糸の生産に鋭意努めますので、多くの皆様に碓氷製糸株式会社製の純国産生糸をご愛用賜りますようお願い申し上げます。

碓氷製糸株式会社 〒379-1101 群馬県安中市松井田町新堀甲 909

TEL 027-393-1101 FAX 027-393-1102

安藤俊幸 メールアドレス usui-ando@xp.wind.jp